

公益財団法人こころのバリアフリー研究会

Newsletter No.19

2023.8.28

会員みなさまへ

(財)こころのバリアフリー研究会 理事長

秋山 剛

温室効果ガス排出量が削減されなければ、過去 5000 万年で見られなかったレベルにまで、地球の気温が上昇するおそれがあると言われています。気候の沸騰化は、私たちのメンタルヘルスにも影響を及ぼし始めているように思います。

今回のニュースレターでは、令和 5 年度第 9 回こころのバリアフリー研究会総会でシンポジウムの座長をお務めいただいた、4 名の方のご挨拶を掲載しています。芳賀大輔さんには、「広げようピアサポーターの輪～ここで活躍しています～」で、いろいろな所で活躍している皆さんの生き生きとした話を引き出させていただきました。増田史さんには、地域も年齢も立つ場所もバラバラでも、えもいわれぬ安心感が得られる「弱さもわたし」のグループワークをリードしていただきました。峰松弘子さんには、「あなたに合った就労のかたち～新しい時代の多様な働き方を語ろう～」で社会でこころのバリアフリーに繋がる新しい時代の組織マネジメントのプロジェクトを取り上げていただきました。関茂樹さんには、「経験の言葉で人権を語ろう」で、一人称（私・私たち）で、自分のこととして精神医療保健福祉と人権の関係について話し合ってくださいました。

精神疾患へのスティグマは巨大ですが、いろいろな活動がいろいろな側面に働きかけることによって、巨大なスティグマが、少しずつ和らいでいると思います。私たちの前進を、実感できる総会としていただいたと思います。ニュースレターで、総会の熱気を思い出していただければ幸いです。



目次 1頁 理事長からの挨拶
3～5頁 総会シンポジウム座長の皆さま

【広げようピアサポーターの輪～ここで活躍しています～】

座長 芳賀 大輔 (NPO 法人日本学び協会 ワンモア)

【続:弱さもわたし～弱さは自分を守るもの～】

増田 史 (滋賀医科大学精神医学講座)

【あなたに合った就労のかたち～新しい時代の多様な働き方を語ろう～】

座長 峰松 弘子 (長崎キャリア支援センター)

【経験の言葉で人権を語ろう】

座長 関 茂樹 (特定非営利活動法人シルバーリボンジャパン)

広げようピアサポーターの輪～ここで活躍しています～
芳賀大輔 (NPO 法人日本学び協会 ワンモア)

今回のシンポジウムは「知りたい！聞きたい！ピアサポーター」の続編の位置付けでした。そのため医療や就労系の福祉サービス以外にもまだまだいろいろな場所で活躍している方がいると考え、3名の方に登壇いただきました。福岡にある地域活動支援センター心の春・希望の木本さんからは地域活動支援センターでの役割についてお話いただきました。「とっても気楽に、とっても適当に」ピアスタッフと



いう仕事を楽しんでいるとメッセージがありました。仙台市役所の山田さんからは全国でも珍しい市役所内のピアスタッフとしての役割についてお話し頂きました。ピア活動だけにとどまらず市役所内の職員に向けて説明することもあるとご紹介いただきました。和歌山のピアグループあっと SAKURA 角野さん (代読地域活動支援センター櫻の中野さん)からは月に1回開催されているピアサポーター活動の紹介を頂きました。地域移行のピアサポート活動や啓発活動など徐々に広がっていることが伝わりました。いろいろな所で活躍している皆さんが生き生きと話されているのがとても印象的なセッションでした。

続：弱さもわたし ～弱さは自分を守るもの～ を担当して

増田 史（滋賀医科大学精神医学講座）

昨年のこころのバリアフリー研究会シンポジウムで「弱さもわたし」のオンラインワークショップを開催して1年後。私たち4人（宇田川、小松、島本、増田）は、その手応えを感じつつ、続編を企画・実施しました。企画抄録の文章「（“弱さ”は）“弱さ”にしかできないやりかたで、わたしたちの生きる力になっているのではないのでしょうか」というフレーズが気に入っています。



今回は、“弱さ”と呼ばれるものに潜む「自分を守る働き」に焦点を当てて、グループワークを行いました。さまざまな人が一堂に介し、グループで語り合い、ときには怒りあい、積極的に発言する様子がありました。企画しておいてなんですが、このワークは結構なエネルギーを要します。それでも参加してくれた方には感謝してもしきれません。ぜひ、現地開催で、互いのバイブスを感じながら話したい。そんな思いを強くしました。

最後に、企画者のうだちゃん、まさき、しまちゃん に心からのありがとうを言いたいです。地域も年齢も立つ場所もバラバラなのに、えもいわれぬ安心感。これが私だけではないことを祈りつつ、直接お会いできることを楽しみにしています。

あなたに合った就労のかたち～新しい時代の多様な働き方を語ろう～

峰松弘子（長崎キャリア支援センター）

第9回こころのバリアフリー研究会総会で座長としてシンポジウムを担当することになった。ありがたいことに「チーム就労」を希望してくださったプログラム委員の方が4名の5名のチーム。

座長は2人で担当し、ほかの3人の方にもコーディネーターとしてかかわっていただき、できるだけ突発的な事が起こったときにもチームの皆が交代できるようなチーム体制にしようと思った。



まず考えたことは、仕事のバリアフリーを進めていく事でこころのバリアフリーが進むという事を理解してもらうための仕組み作り。登壇者選出は、大学・福祉・産業から現場で研究・実践している方々を選びご自身の経験の言葉で「新しい時代の働く」について語ってもらうこと。次は、多様な業界経験・立場が違うメンバーたちが互いに尊敬し合い今できる力を自然に発揮出来る舞台や仕掛け作りをすること。そして、チームのメンバーで実際にやってみて総会後もそれぞれの職場や各人が関係するプロジェクトの中で広げていくこと。

事務局・登壇者・そしてメンバー一人一人のころをつなぐのが私の役目。一番難しかったのは自分自身のタイムマネジメント。事務局の提出日に間に合うようにメンバーや登壇者に連絡・情報を共有するためにはいつその原稿を準備しないといけないのか、を考えて実行。やってみて思ったのは書面でデジタル共有はやっぱり新時代の組織運営における重要な手法のひとつなんだなあ〜と実感した。

多様な人材がその良さを活かし合って成果を出す新しい時代の組織マネジメントを当たり前にしていくそのきっかけを作れた会。全ての人が働ける仕事のバリアフリー化は、社会でのころのバリアフリーにきっと繋がると思う。

シンポジウム「経験の言葉で人権を語ろう」の座長をしてみたい 関 茂樹（特定非営利活動法人シルバーリボンジャパン）

今回、初めて当研究会の総会に参加させていただき、僭越ながら座長を担わせていただいた。シンポジストは当事者2名、家族1名、法律家1名という構成で、それぞれの立場、そしてその立場故の経験に基づいた価値ある話をしていただいた。当たり前の話かもしれないが、立場の違いによっては、想いが相違することや意見が対立することも起こり得る。特に当事者と家族との関係性においては、それが表出しやすいともされる。当事者の立場として望むこと、家族の立場として望むこと、どちらにも誠実かつ切実な想いが込められており、それが合致しないことがあるほうが、むしろ自然な形なのかも知れない。私も当事者であるからこそ、そのように理解しており、無論どちらが正しいというものでもない。この度のシンポジウムでは、異なる立場においても通じるキーワードがあることを再認識した。それがアンチスティグマだ。当事者・家族の人権を脅かすスティグマに対し、シンポジストはそれぞれの立場で、それぞれの経験を強みとして、スティグマをなくすためのアクションを展開している。立場を尊重し、それぞれの価値ある経験を結集すれば、スティグマという高い山をも切り崩すことが可能となる。そんなことを感じ得ずにはられないシンポジウムであった。この度のシンポジストをはじめ、当日に至るまで支えていただいた4名のコーディネーターにも、改めてお礼を申し上げたい。

